

● **【なぜ いま A I（人工知能） が注目されるのか！】**

日刊工業新聞、月刊雑誌などA I， ロボット、 I o Tなどの記事を見ない日はありません。A Iは、近年コンピューター処理能力の飛躍的な向上 や 画像処理など分析技術の急速な進歩により注目され、急激に世の中が変わろうとしている時代を感じています。

既に多くの分野で実用化が進んできておりますが、皆様ほどの程度実感していますでしょうか？

⇒具体的な事例としては、

- ・医療分野では、医師→A I ・ビッグデータでの画像分析による診断
- ・車の挙動分析にA I， ものづくり生産工程管理にA I
- ・工場自動化に向けたA I ロボット
- ・ベビーフードなど食料検査を人の目→画像データA I
- ・ドローンを活用した牧草の生育・牛の健康管理にA I、ブドウ栽培管理にA I
- ・利用者ごとに最適な運転を自動調整できるスマート家電にA I
- ・企業面接にA I ロボット面接官、美少女オーディションの審査員A I， 人事評価員A I
- ・法律や技術レポートの文書理解・管理・検査・分析にA I
- ・顔認証による入場システムにA I
- ・アパレル業界で洋服など好みの傾向推測や購入見込み客を想定した発注システムにA I
- ・電話がつながりにくいコールセンターにA I
- ・新聞記事の自動作成にA I などなど

⇒多くの分野で既に実施されている事例を勉強し、時代に取り残されない 一歩先をいく “企業のこれから” を考えてみるのは、今でしょ！

● 講演①

**「理研（国）が進めるA Iプロジェクトの狙い」**

理研 革新知能統合研究推進室 室長 生越 満 様

⇒本年から本格的に稼働を始めているA Iプロジェクトは、世界における日本の現状や何を狙って活動しているのか！などを幅広く話して頂きます。

● 講演②

**「イチゴ収穫ロボットの開発物語」**

アイ・アート（株）取締役 尾崎 功一 様（兼 宇都宮大学教授）

⇒理研、化学工業研究室に所属し原子力保全作業用ロボットを研究、その後宇都宮大学教授として研究室を設立し、2006年に大学発ベンチャーを起業。

農家との出会いからイチゴ収穫ロボットを研究。イチゴには一切触れない収穫ロボットの商品化と同時に痛みがはやいイチゴの非接触個別容器の開発で欧米への輸出を可能にする。ユニークアイデアで勝負する 話が上手なベンチャー企業。

● 講演③

**「埼玉県におけるI o T活用支援事業のご紹介」**

埼玉県産業振興公社 IoT・技術支援G r. IoT コーディネータ 篠原 明彦 様

⇒2016年4月に公社内組織として発足したIoT・支援G r. は、どのような支援活動を行っているかなど具体的に説明して頂きます。

是非、セミナーにご参加頂き、A I， ロボット、 I o Tにふれて頂きたいと考えております。